

第1 監査の概要

- 1 監査の種類 出資団体監査
- 2 監査対象 株式会社三重県四日市畜産公社
商工農水部農水振興課、食肉センター・食肉地方卸売市場
(出資に関する事務の所管所属)
- 3 事前調査期間 平成26年12月4日から平成27年1月13日まで
- 4 監査期間 平成27年1月14日
- 5 監査対象年度 平成25年度
- 6 監査対象事項 出納その他の事務
- 7 監査方法 関係帳票の整備・記帳及び証拠書類の保存は適切か、会計経理及び財産管理等は適正に行われているか、財務諸表は適正に表示されているかに重点をおいて、関係帳票・証拠書類等の抽出調査及び監査調書に基づく質問等により行った。
また、所管所属に対し、出資団体の事業運営を十分把握し、指導的役割を果たしているかに重点をおいて、監査調書に基づく質問等により行った。

第2 監査対象の概要

- 1 設立年月日 昭和56年2月27日
- 2 資本金等(平成26年3月末日現在)
 - (1) 発行可能株式総数 400,000株
 - (2) 発行済株式の総数 100,000株
 - (3) 払込資本金 100,000,000円
 - (4) 四日市市の出資 25,000,000円(出資割合 25.0%)
- 3 役員数及び職員数(平成26年11月末日現在)
 - (1) 取締役 9名
代表取締役社長 原田 秀十志
その他取締役 8名
 - (2) 監査役 2名
 - (3) 職員 64名
(準社員、シニアパートナー、嘱託従業員、パートタイマーを含む)
- 4 事業内容
 - (1) 家畜のと殺及び解体
 - (2) 家畜枝肉並びに部分肉の荷受及び卸売
 - (3) 前各号に附帯する一切の業務

5 決算の状況

第34期(平成25年度)、第33期(平成24年度)の損益計算書、貸借対照表は次の各表のとおりである。なお、各表は、当法人作成の「決算報告書」から転記したものである。

(1) 比較損益計算書

科 目	平成25年度	平成24年度	対前年度増減額	増減率
	円	円	円	%
売上高	662,631,238	628,300,621	34,330,617	5.5
販売手数料	156,921,859	133,853,008	23,068,851	17.2
解体手数料	156,383,595	149,288,771	7,094,824	4.8
業務受託料	111,783,200	114,829,000	3,045,800	2.7
冷蔵庫保管料	26,340,668	25,034,625	1,306,043	5.2
牛加工料	39,697,545	38,096,277	1,601,268	4.2
豚内臓売上高	60,246,085	59,674,376	571,709	1.0
牛内臓売上高	39,420,412	43,356,961	3,936,549	9.1
豚加工料	71,837,874	64,167,603	7,670,271	12.0
売上原価	55,469,495	57,799,007	2,329,512	4.0
豚内臓仕入高	31,957,178	33,255,032	1,297,854	3.9
牛内臓仕入高	23,512,317	24,543,975	1,031,658	4.2
売上総利益金額	607,161,743	570,501,614	36,660,129	6.4
販売費及び一般管理費	715,535,605	676,794,149	38,741,456	5.7
営業損失金額	108,373,862	106,292,535	2,081,327	2.0
営業外収益	99,851,414	95,338,477	4,512,937	4.7
受取利息	629	432	197	45.6
受入補助金	79,302,000	79,352,000	50,000	0.1
賃貸・光熱料	4,714,068	6,468,258	1,754,190	27.1
雑収入	15,834,717	9,517,787	6,316,930	66.4
営業外費用	252,682	583,556	330,874	56.7
支払利息割引料	252,630	582,118	329,488	56.6
雑損失	52	1,438	1,386	96.4
経常損失金額	8,775,130	11,537,614	2,762,484	23.9
特別利益	16,326,400	15,814,633	511,767	3.2
貸倒引当金戻入益	2,486,400	2,184,800	301,600	13.8
賞与引当金戻入益	13,840,000	13,629,833	210,167	1.5
税引前当期純利益金額	7,551,270	4,277,019	3,274,251	76.6
法人税、住民税及び事業税	200,000	200,000	0	0.0
当期純利益金額	7,351,270	4,077,019	3,274,251	80.3

(2) 比較貸借対照表

科 目	平成 2 5 年度	平成 2 4 年度	対前年度増減額	増減率
	円	円	円	%
流動資産	303,785,741	292,198,131	11,587,610	4.0
現金・預金	156,652,992	165,610,792	8,957,800	5.4
牛加工売掛金	3,470,050	1,946,964	1,523,086	78.2
受託販売未収金	105,136,942	73,467,666	31,669,276	43.1
内臓未収金	4,236,761	6,424,784	2,188,023	34.1
豚加工売掛金	4,169,716	3,854,210	315,506	8.2
貯蔵品	1,109,043	1,314,309	205,266	15.6
前払費用	102,800	108,600	5,800	5.3
立替金	295,320	225,620	69,700	30.9
未収入金	29,810,727	40,380,736	10,570,009	26.2
未収冷蔵庫使用料	609,840	448,350	161,490	36.0
自家用未収金	1,068,750	902,500	166,250	18.4
貸倒引当金	2,877,200	2,486,400	390,800	15.7
固定資産	192,325,855	143,353,968	48,971,887	34.2
有形固定資産	1,228,671	1,935,896	707,225	36.5
建物附属設備	17,331	23,105	5,774	25.0
設備造作	85,703	122,838	37,135	30.2
機械装置	419,898	600,760	180,862	30.1
車両運搬具	319,575	652,388	332,813	51.0
工具器具備品	386,164	536,805	150,641	28.1
無形固定資産	797,184	1,118,072	320,888	28.7
電話加入権	128,260	128,260	0	0.0
ソフト	668,924	989,812	320,888	32.4
投資その他の資産	190,300,000	140,300,000	50,000,000	35.6
長期貸付金	190,000,000	140,000,000	50,000,000	35.7
保証金	300,000	300,000	0	0.0
資産合計	496,111,596	435,552,099	60,559,497	13.9
流動負債	197,358,455	206,528,182	9,169,727	4.4
受託販売未払金		5,970,577	5,970,577	皆減
短期借入金	10,000,000	20,000,000	10,000,000	50.0
未払費用	131,895,341	122,607,668	9,287,673	7.6
未払法人税等	200,000	200,000	0	0.0
預り金	41,463,114	43,909,937	2,446,823	5.6
賞与引当金	13,800,000	13,840,000	40,000	0.3
固定負債	279,639,985	217,262,031	62,377,954	28.7
長期借入金	190,000,000	140,000,000	50,000,000	35.7

預り保証金	32,399,985	32,394,031	5,954	0.0
長期前受金	2,000,000	4,000,000	2,000,000	50.0
退職給与引当金	55,240,000	40,868,000	14,372,000	35.2
負債合計	476,998,440	423,790,213	53,208,227	12.6
株主資本	19,113,156	11,761,886	7,351,270	62.5
資本金	100,000,000	100,000,000	0	0.0
利益剰余金	80,886,844	88,238,114	7,351,270	8.3
その他利益剰余金	80,886,844	88,238,114	7,351,270	8.3
繰越利益剰余金	80,886,844	88,238,114	7,351,270	8.3
純資産合計	19,113,156	11,761,886	7,351,270	62.5
負債・純資産合計	496,111,596	435,552,099	60,559,497	13.9

6 取扱高

平成25年度、平成24年度の取扱高については、次の表のとおりである。なお、各表は、当法人作成の「第34期定時株主総会招集通知」添付の取扱高報告から転記したものである。

【牛】	平成25年度	平成24年度	対前年比(%)
入荷頭数	5,348	5,284	101.2
取引頭数	1,397	1,378	101.4
平均単価/頭	636,175	525,032	121.2
平均単価/k g	1,436	1,196	120.1
取引金額	888,736,064	723,494,580	122.8

【豚】	平成25年度	平成24年度	対前年比(%)
入荷頭数	89,005	83,897	106.1
取引頭数	89,143	83,761	106.4
平均単価/頭	37,412	33,037	113.2
平均単価/k g	481	428	112.4
取引金額	3,335,028,545	2,767,214,023	120.5

牛豚合計取引高	4,223,764,609	3,490,708,603	121.0
---------	---------------	---------------	-------

【牛部分肉】	平成25年度	平成24年度	対前年比(%)
取扱頭数	1,427	1,318	108.3
取扱重量	404,561.3	373,081.6	108.4
平均賃加工料/k g	98	102	96.1
取扱金額	39,697,545	38,096,277	104.2

【豚部分肉】	平成 25 年度	平成 24 年度	対前年比（％）
取扱頭数	20,832	18,847	110.5
正肉重量	1,160,102.7	1,056,413.7	109.8
取扱金額	71,837,874	64,167,603	112.0

【内臓処理】	平成 25 年度	平成 24 年度	対前年比（％）
内臓売上	90,465,808	93,297,141	97.0
その他売上	9,200,689	9,734,196	94.5
合計売上	99,666,497	103,031,337	96.7

総取引高	4,434,966,525	3,696,003,820	120.0
------	---------------	---------------	-------

第 3 監査の結果

「株式会社三重県四日市畜産公社」の出納及びその他関連する事務並びに所管所属の当法人に対する指導状況等について監査した結果、次の指摘事項及び意見のとおり、是正又は改善を要するものなどが見受けられた。今後の事務執行にあたっては、これらに十分留意するとともに、その措置を講じるよう要望する。

なお、措置を講じたときは、遅滞なく通知されたい。

1 指摘事項

【株式会社三重県四日市畜産公社】

(1) 現金等の管理について

次のとおり不適切な事例が見受けられた。不備のない適切な事務処理を行うこと。

ア 金銭出納帳が鉛筆により記載されていた。

イ 郵便切手及び収入印紙受払簿に、払い出し理由(目的)取扱者名を記載する欄がなかった。

(2) 経理規程について

改正された経理規程第 47 条に、旧経理規程で使用されていた「総務責任者」という用語が残っていた。経理規程を適切に改めること。

(3) 固定資産の管理について

経理規程第 51 条に定められた毎期末の固定資産の実地棚卸が行われていなかった。不備のない適切な事務処理を行うこと。

【商工農水部農水振興課、食肉センター・食肉地方卸売市場】

特になし

2 意見

【株式会社三重県四日市畜産公社】

(1) 出資目的に沿った運営について

当法人の目的は、「四日市市が開設する食肉センター及び食肉地方卸売市場において、食肉の安定供給、肉畜生産の振興及び食肉の消費拡大」である。食肉センター、食肉地方卸売市場との適切な頻度での情報交換による市場把握を経営目的の第一義と考え、月例の情報交換の場（生産・販売会議など）を設けて、出資目的に沿った運営を再徹底すること。

加えて、社長は、毎年度スタート時には具体的な社長方針を各部門に示し、その実行を確認していくこと。 【改善事項】

(2) 定例的な経営会議の開催について

月次1回以上の「経営会議」を定例的に開催し、課長以上が一堂に会して、市場の動き、生産状況、設備や人的な課題、品質問題、収支状況等を1～2時間かけて情報共有し、諸課題の検討の場とすること。また、社長は月ごとの進捗や方向の確認や、指導が必須である。

早期に月次定例の経営会議の開催（主催：社長、事務局：総務部）を行うこと。【改善事項】

(3) 参与職員が全部長職の上位職にある組織の見直しについて

参与は一般的に組織の命令系統の中に位置づけられる役職ではない。役員ではない参与という1スタッフが組織ライン上の全部門責任者を統括する位置にある組織図は異常であり、早期の改正を行うこと。

社長と各部門長を直接につなげ、参与は特命事項を担当する1スタッフとすること。

【改善事項】

(4) 経営スタッフによる経営体質の正しい理解について

決算数値は悪化しており、経営体質の改善が急がれる。

ア 外注の採算性見極め不足、高額な接待交際費の常態化、水道光熱費・消耗品費・事務用品費など「売上伸び率の2倍以上増加した経費」の無分析、無対応など、日々の管理活動に徹底を欠く経営をしていること。

イ 売上高は3,433万円増加したが販売費一般管理費が3,874万円増加した結果、増収であるが、それ以上に費用が増加して営業利益の赤字が増加していること。

ウ 雑収入を除くと当期純利益は前年度・当年度とも赤字であり、その額が544万円から848万円に赤字が増加していること。

以上のことを踏まえて、月次の経営会議を実施し、決算内容を徹底分析して、課題の絞り込み、対策の実践、フォローを定例的に必ず実施すること。市から使用料を減免された巨額の施設を使いながら営業利益が赤字ということは、経営の責任を問われかねない。危機感を持って経営改善に取り組み、収支の改善を図ること。 【改善事項】

(5) 余剰現金・預金の活用について

市から特別に低利の借入金を受けて、肥育牛預託貸付を行なっているが、常時所有する1億5,000万円程の現金・預金の一部をこの借入金削減に回し、市や当法人の利息負担を削減するなどの活用にも取り組むこと。 【要望事項】

(6) 引当金計上基礎の考え方と継続性の原則の徹底について

貸倒、賞与、退職給与引当金などは、十分にその計算基礎の考え方を検討・決定し、毎年

その計上方法を維持し、経営の状態に左右されることなく継続して計上を行うこと。断じて利益調整の道具にはしないこと。 【改善事項】

(7) 牛のと畜上場頭数及び解体手数料について

市場外流通のと畜（いわゆる自家用と畜）頭数が多い牛について、市場取引割合を向上させ、販売手数料収入の増加を図ること。また、と畜解体取扱量の増加及び解体手数料の見直しにより、増収を図ること。 【要望事項】

(8) 日常の小さな業務の適正な遂行について

日常業務の規程からの逸脱、不備、金銭出納帳の鉛筆書き、切手・収入印紙の無管理、保有・借用資産の実査無しなど、日常業務の杜撰さや上司の無牽制が目立ちすぎる。日々の小さな業務の効率化や適正化に取り組み、併せて、不正など大きな事故につながらないように、日常の業務遂行の見直し改善の実施を行うこと。 【改善事項】

【商工農水部農水振興課、食肉センター・食肉地方卸売市場】

(1) 当法人の経営に対する指導監督について

参与の位置付けを含めた組織の見直し、定例的な経営会議の開催、日常の上司への報告の徹底などの経営改善の実現を方向付けるとともに、取締役会において経営内容を定期的にチェックし、適切に指導監督すること。また、食肉センター・食肉地方卸売市場の開設者として、安全衛生対策や施設の長期的な維持・更新を行うこと。 【改善事項】